

## 令和4年度 事業報告書

### 第1 はじめに

令和4年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大で延期となっていた核兵器禁止条約の第1回締約国会議が令和4年6月にウィーンで開催され、「核なき世界」の実現を目指す「ウィーン宣言」と具体的な取り組みをまとめた「ウィーン行動計画」が採択され、核兵器廃絶への第一歩となった。しかし、8月にニューヨークで開催された核不拡散条約（NPT）再検討会議は、何とか妥協点を探ろうとする動きがあったものの、ウクライナ情勢をめぐり、ロシアが強硬姿勢を崩さず、最終文書は採択できず閉幕した。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続く中、ロシアのプーチン大統領は核兵器使用を示唆する発言を繰り返し、最近ではベラルーシへの核配備を進めている。

当協会では、この軍事侵攻を強く非難し、対話と外交により平和的解決の道を探ることを求める理事長コメントを侵攻直後に出した。令和4年度も引き続き継承部会の被爆者の思いを「いま世界に届けたい被爆者の言葉」としてSNSで発信するとともに、令和5年2月には長崎在住のウクライナ留学生を支援する「ウクライナ支援チャリティーコンサート～長崎から平和を～」を長崎県音楽連盟と共催で開催した。

新型コロナウイルスの感染が続くなかで、平和案内人の原爆資料館常駐ガイド、朗読ボランティアの常駐朗読の夏場の一時中止はあったものの基本的感染対策の徹底を継続しながら、被爆体験講話をはじめ、長崎市から受託している「青少年ピースフォーラム」、「青少年平和交流（少年平和と友情の翼）」など多くの事業は年間を通して対面で開催することができた。令和5年2月には国際基督教大学構内で初めて原爆・平和展を開催した。

「平和の文化」の取り組みでは、「音楽と、朗読と、言葉で紡ぐ ピーター・タウンゼントの平和への想い」や長崎県音楽連盟との共催による平和を祈るラウンジコンサート、平和への願いを託した書道展を開催した。さらに「国際平和映画祭」を出島メッセ長崎で開催するなど積極的に取り組んだ。

協会ホームページは、多言語対応（16か国語）やセキュリティ強化のほか、より見やすく、わかりやすく全面的に改修した。

追悼平和祈念館が長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）に委託している「被爆の実相の伝承」オンライン化・デジタル化事業では、収集した「被爆前の長崎」の写真を活用した平和教育教材や被爆前後の様子を比較しながら見ることができる「航空写真アーカイブ」を制作し、ホームページ「被爆前の日常アーカイブ」を開設した。

令和5年度からの実施に向け、会員の利便性向上を図るため会費のコンビニ収納及び学生会員増加策として学生会費無料化の準備を進めた。

## 第2 令和4年度の事業

当協会の事業は、公益目的事業である「1 平和推進事業」「2 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業」「3 収益事業（図書等販売）」の3事業であり、令和4年度の各事業の実施状況は、次のとおりである。

### 1 平和推進事業

「核兵器の廃絶」と「世界恒久平和の実現」に向けて、平和への認識をさらに深めてもらうために、財政基盤の確立と円滑な事業運営を図りつつ、次の事業を実施した。

#### (1) 広報事業

##### ①会報等の発行

- ・会報「へいわ」の発行  
年4回発行（令和5年3月末現在177号、1回あたり2,300部発行）
- ・ブックレット「平和のあゆみ」の発行  
年1回、1,700部発行
- ・情報BOXの発行  
毎月150部発行、協会役員、各部会員等へ郵送
- ・会員入会案内リーフレット：イベント開催時、ネット販売送付時等に配布

##### ②ホームページ等広報

- ・協会ホームページ  
協会の設立趣旨や事業概要などの紹介、被爆体験講話・平和案内人をはじめとする平和学習の申込方法の案内の他、会報「へいわ」などのバックナンバーも掲載した。

令和4年度には、協会ホームページの全面的な改修を行い、セキュリティ対策の強化や多言語対応（16か国語）、事業報告や感想等を掲載して協会の事業を分かりやすく紹介した。（令和5年4月1日リニューアル）

- ・SNS：LINE 協会イベント等の情報発信（月4回程度投稿）  
Instagram 青少年ピースボランティアの活動紹介、連続企画等発信（182投稿）  
YouTube 「千羽鶴合唱プロジェクト」や「8月9日の記憶」の動画発信（35投稿）  
Facebook 追悼祈念館の情報を発信（32投稿）
- ・その他  
原爆資料館電停での広告パネルの設置や新聞広告掲載等で協会事業を広報した。

#### (2) 啓発事業

##### ①平和学習：被爆体験講話者（継承部会員）派遣

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止で延期や中止になっていた修学旅行が、例年通りに実施されたため、被爆体験講話もほぼ例年の実施件数に戻った。

講話者と聴講者の間に2メートル以上の間隔を空けた上でアクリル板を設置し、座席の消毒や部屋の換気など徹底した感染対策に取り組みながら活動を実施した。

また、修学旅行等の団体に対して、出席者の検温等の健康管理をお願いするとともに、講話者に対しても事前に検温等の健康確認を行った。

また修学旅行の事前学習で被爆体験講話を希望した学校等に対してオンライン講話を実施した。(オンライン件数：6件)

#### <被爆体験講話の実績(学校・団体)>

区分	実施件数	受講人数	摘要
令和元年度	1,168件	140,203人	
令和2年度	495件	42,355人	コロナ禍
令和3年度	695件	75,056人	コロナ禍
令和4年度	1,092件	125,036人	コロナ禍

#### <令和4年度の内訳>

区分	実施件数	うち市内	オンライン	受講人数
小学校	452件	52件	0件	37,990人
中学校	347件	21件	1件	44,211人
高等学校	239件	2件	4件	39,666人
一般	54件	0件	1件	3,169人
計	1,092件	75件	6件	125,036人

※「うち市内」は、長崎市内の小中学校・高校・一般の講話件数

#### ア 被爆体験講話者派遣事業(長崎県主催事業)

県内：佐世保市、諫早市、大村市、松浦市、対馬市、壱岐市、五島市、西海市、雲仙市、南島原市、長与町

大学：上智大学(オンライン)、九州大学、長崎県立大学・長崎純心大学(オンライン)

#### イ 被爆者証言ビデオ

継承部会員の被爆場所や当時の自宅周辺などを訪れ、被爆前の生活や被爆直後の様子、家族の話、被爆後の暮らしなどを語る被爆者証言ビデオ「被爆場所等で語る被爆証言映像 8月9日の記憶」を制作した。

・被爆者4人撮影：築城 昭平氏、早崎 猪之助氏、森田 博満氏、門 隆氏

※「8月9日の記憶」約15分/人(令和2年度からの累計：12人)

#### ②原爆被災写真パネル・DVD(ビデオ)の貸出

修学旅行などの事前学習の他、写真展の開催などに役立ててもらうため、原爆被災写真パネル・DVD(ビデオ)を無料で貸し出している。

令和4年度は、新しいパネル2種類6セットと被爆者証言ビデオの貸出しを開始した。

### <令和4年度貸出状況>

区分	写真パネル	DVD（ビデオ）	
	件数	件数	本数
小学校	4	10	23
中学校	1	16	35
高等学校	0	15	38
一般	12	23	45
計	17	64	141

### ③講演会等の開催

協会の設立趣旨に沿い、広く市民に世界恒久平和への諸問題について認識を深めてもらうため講演会等を開催しており、令和4年度は講演会の他、「平和の文化キャンペーン」としてイベントも開催した。

「音楽と、朗読と、言葉で紡ぐ ピーター・タウンゼントの平和への想い。」

- ・開催日：令和4年8月13日
- ・会場：長崎原爆資料館ホール
- ・入場者：約200人

「ラウンジコンサート 2022 Music Garden Pray & Play」

- ・開催日：令和4年9月3日、10月8日、11月19日
- ・会場：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ
- ・入場者：約150人

「森田孝子書道展 平和への願いを書に託して」

- ・開催日：令和4年10月22日～28日
- ・会場：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ
- ・入場者：約3,260人

「ウクライナ支援チャリティーコンサート ～長崎から平和を～」

- ・開催日：令和5年2月9日
- ・会場：長崎原爆資料館ホール
- ・入場者：約350人

### ④国連軍縮週間行事「市民のつどい」

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の予防のため、戦時食コーナーなど飲食物の提供は中止したが、原爆写真パネルの展示やミニコンサートの開催、折り鶴やエコ風船コーナーを実施し、初めての試みとしてチンドン屋「かわち家」による平和の紙芝居を上演した。

- ・開催日：令和4年10月29日(土)10:00～13:00
- ・場所：原爆資料館前階段下広場
- ・来場者：約400人

⑤「平和への<sup>ウムイ</sup>思い」発信・交流・継承事業

(特定非営利活動法人 沖縄平和協力センターからの受託事業)

令和4年度も、沖縄県平和祈念資料館の主催する「令和4年度『平和への思い』発信・交流・継承事業」について、受託事業者である特定非営利活動法人沖縄平和協力センターを介し、長崎における学生募集の窓口機関として、長崎在住の大学生の参加に伴う5人の学生の募集・選考、事前学習、沖縄への研修の帯同などを行った。

- ・事前学習：令和4年10月～11月
- ・派遣学習：令和4年11月6日（日）～13日（日）

⑥研修の受け入れ

- ・国際基督教大学（ICU）サービス・ラーニングの学生受け入れ  
原爆・平和、協会の事業について理解を深めてもらうため、国際基督教大学の学生4人を7月12日（火）から8月10日（水）まで受け入れた。
- ・長崎市立山里中学校教師の研修受け入れ  
長崎市教育委員会の「社会体験研修」として教職員1人を8月4日（木）～8月9日（火）の4日間（土日を除く）受け入れた。

(3) 継承事業（長崎市からの受託事業）

①「県外原爆・平和展」

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年度から延期になっていた鳥取県米子市と国際基督教大学での原爆展を現地で開催し、継承部会員などを現地へ派遣することができた。

また、今回大学での原爆展は、初の開催となった。

<令和4年度県外原爆・平和展の開催内容>

鳥取県 米子市	開催時期	令和4年8月2日～8月14日（12日間）
	展示会場	米子市立図書館2階市民ギャラリー
	来場者数	544人
国際基督 教大学	開催時期	令和5年2月6日～2月10日（5日間）
	展示会場	国際基督教大学ダイアログハウス2階国際会議室
	来場者数（オンライン参加含む）	260人

②語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言）推進事業

感染対策を行いながら、聞き取りや講話原稿・資料作成などの支援や交流会、デジタル機器を活用した講話方法の研修などを実施した。

ア 登録者数及び講話者数（令和5年3月31日現在）

登録者104人、うち講話者延56人（実人数51人）

## イ 講話実施回数

区 分	市内	市外	県外	合計
令和元年度	60 件	15 件	89 件	164 件
令和 2 年度	68 件	6 件	36 件	110 件
令和 3 年度	105 件	13 件	48 件	166 件
令和 4 年度	125 件	16 件	84 件	225 件

## ウ 主な事業内容

- ・ 交流会の開催 令和 4 年 9 月 17 日（土）参加者数 10 人  
※9 月 18 日（日）は台風のため中止
- ・ 各種研修会の開催（原爆や核についての講座、話し方研修、パソコン研修等）
- ・ 動画作成（被爆者 3 人分）
- ・ 審査会の開催 5 件

## ③青少年ピースボランティア育成事業

令和 4 年度は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、徐々に対面での研修・活動を復活させた。様々な視点で平和を発信するため、自主企画プロジェクトとして、「千羽鶴」合唱動画の制作や Study History などのチームが活動を実施した。

ア 対 象：15 歳（中学生除く）以上 30 歳未満の青少年

イ 登録者：121 人（令和 5 年 3 月 31 日現在）

（内訳：高校生 75 人、大学生 32 人、社会人 7 人、その他 7 人）

## ウ 主な事業内容

- ・ 平和学習（月 1 回程度）：被爆の実相や平和に関する諸問題の学習
- ・ 青少年ピースフォーラムへの参加及びその準備
- ・ 平和祈念式典や市民大行進等平和関連行事でのボランティア活動
- ・ 青少年平和交流（少年平和と友情の翼）の研修リーダーとしての派遣
- ・ 平和学習発表会の進行
- ・ 「自主企画プロジェクト」の実施
- ・ 出前講座や被爆遺構ガイド、他団体等との交流の実施
- ・ 平和関連施設見学  
「北九州バスツアー」 令和 4 年 11 月 13 日（日）
- ・ 派遣研修  
「沖縄研修」 令和 5 年 1 月 7 日（土）～1 月 9 日（月・祝）

#### ④青少年ピースフォーラム

毎年8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する平和使節団の青少年と地元長崎の青少年とが一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図った。主な企画や当日の進行は、青少年ピースボランティアが担います。令和4年度は、3年ぶりに対面での開催となった。

ア 日 時：令和4年8月8日（月）14時00分～18時00分

令和4年8月9日（火）14時00分～16時00分

イ 自治体数：29団体（ライデン市含む）

ウ 場 所：平和会館、長崎原爆資料館、出島メッセ長崎ほか

エ 参加者数：251人 ※青少年ピースボランティア56人

オ 主な内容

- ・被爆体験講話
- ・参加型平和学習（照明や音響を活用した戦時下の生活の疑似体験など）
- ・被爆建造物等めぐり ・グループに分かれての意見交換
- ・青少年ピースボランティア「千羽鶴」合唱動画の配信

#### ⑤青少年平和交流（少年平和と友情の翼）

市内の中学生を対象とした、沖縄の戦跡や平和関連施設の見学、那覇市の中学生との交流や双方の戦争被害について伝え合うなど、「学び、伝える」研修を行った。

なお、研修リーダーとして青少年ピースボランティアが参加し、事前・事後学習などの補助を行うことで、若者間の連携を進めるとともに、次世代の育成を図るもので、3年に1回実施されている。

ア 派遣場所：沖縄県

イ 派遣者：市内の中学生29人（公募）、青少年ピースボランティア4人、保健師1人、教職員1人、職員4人

ウ 研修内容：

- ・事前研修 令和4年7月10日（日）  
家族・交流証言講話聴講、原爆資料館見学、沖縄についての学習  
意見交換練習
- ・市長表敬 令和4年7月27日（水）  
市長・教育長表敬
- ・派遣研修 令和4年8月18日（木）～8月20日（土）（2泊3日）  
那覇市長表敬、平和関連施設等の見学、沖縄戦の講話聴講、那覇市の中学生との交流及び意見交換
- ・報告会 令和4年8月25日（木）  
平和学習発表会にて市内中学生に報告

## ⑥平和学習発表会 ※令和3年度より受託

長崎市内の中学生が、日頃取り組んでいる平和学習の成果などの発表を通して、各校における生徒による平和への取り組みを発展させることを目的として開催した。

ア 日 時：令和4年8月25日（木）10時00分～12時00分

イ 参加者数：51人 ※青少年ピースボランティア9人

ウ 主な内容

- ・各学校の取り組み発表
- ・少年平和と友情の翼の紹介
- ・青少年ピースボランティアによる平和活動の紹介

## （4）調査研究

### ①第10回平和首長会議総会

開催日：令和4年10月19日（水）～20日（木）

場 所：広島国際会議場ほか

基調テーマ：核兵器のない平和な未来を創造するために～市民社会に「平和文化」を根付かせよう～

出席者：9か国102都市176人（うち首長44人）

（内訳）・国内94都市159人（うち首長42人）

・海外8か国 17人（うち首長2人）

## （5）育成事業

### ①部会活動

令和4年度も、様々な活動に制約がある中、三密を避け感染防止対策を講じながら協会会員で組織する4部会の活動を行った。

ア 継承部会(32人)：修学旅行生等を対象とした被爆体験講話の他、計7班の調査・協議等に係る自主活動として、市民対象碑めぐり、被爆体験の深化講座の開催、継承部会つうしんの発行、海外とのオンラインによる講話などを実施した。

イ 写真資料調査部会(9人)：被爆写真や平和関連資料の収集と調査・整理とともに、定期的に写真展を開催した。

令和4年度の写真展は7月25日から8月5日まで、「ロシアによるウクライナ侵攻で、核兵器が使われかねない危機に直面している今だからこそ、あの日の惨状を振り返る」をテーマに国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館で開催した。

ウ 国際交流部会(14人)：毎月例会を開催し、地元の外国人との相互理解を深めている。

エ 音楽部会(16人)：長崎平和音楽祭の開催に協力をし、「市民のつどい」で平和の歌の合唱をした。



## ②平和案内人派遣事業

新型コロナウイルス感染状況を見ながら、一定期間活動中止の対応を行った。  
また、ガイドの際には、感染対策を行いつつ実施した。

第1期生から第7期生まで、現在、平和案内人160人が登録し、活動している。

### 《活動内容》

- ・長崎原爆資料館の常駐ガイド（無料）  
長崎原爆資料館や追悼平和祈念館の館内を無料で案内  
※7月21日～9月28日は中止
- ・長崎原爆資料館予約ガイド（有料：1,500円）※R5年度から2,000円  
事前に申し込みがあった場合、館内を有料で案内
- ・碑めぐりガイド（有料：1,500円）※R5年度から2,000円  
事前に申し込みがあった場合、平和公園や周辺の被爆建造物等、希望に応じた箇所を有料で案内している。

### 《全体会など》

令和4年度は、感染対策を講じながら、下記の内容で全体会を実施した。

5月14日 「私が見てきた素顔のウクライナとロシア」

講師：長崎大学グローバル連携機構 助教 高橋純平

12月10日 「核兵器廃絶にむけて長崎からできること」

講師：ピースボート共同代表・核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）

国際運営委員会 川崎哲、KNOW NUKES TOKYO 共同代表 中村涼香

また、10年ぶりに広島視察研修を実施し、平和案内人の40名がリニューアルした広島平和記念資料館などの見学やヒロシマ・ピース・ボランティアとの交流を行った。実施日：令和5年2月28日～3月1日

### <平和案内人活動実績>

区分	利用者数				活動人数 (延)
	原爆資料館 常駐ガイド	予約ガイド		計	
		資料館内	碑めぐり		
令和元年度	8,999人	2,234人	8,704人	19,937人	2,504人
令和2年度	2,345人	514人	2,704人	5,563人	1,136人
令和3年度	1,918人	688人	3,939人	6,545人	1,098人
令和4年度	4,287人	1,503人	7,757人	13,547人	2,029人

## ③国際青年平和交流事業

令和4年度は、長崎の若者（大学生・高校生）に、平和に関する自由な発想の「企画」を募集し、2事業を認定した。

- ・発表・審査会 令和4年6月11日〔追悼平和祈念館交流ラウンジ〕
- ・成果報告会 令和5年3月4日〔追悼平和祈念館交流ラウンジ〕

《事業内容》

ア 活水高等学校 平和学習部

長崎で被爆した少年少女たちの証言を、3D 地図ソフト「RE:EARTH」上で日本語と英語で読めるようにした。

イ 長崎純心大学 Green Pieces

予定していた国際交流を兼ねた演奏会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止したが、歌唱動画を作成し、SNS で発信した。

④平和事業支援（共催・協力・後援事業）

令和 4 年度 共催事業

No.	事業名	主催団体	開催日	開催場所
1	第 32 回ながさき平和大集会 [共催金：36,000 円]	核兵器廃絶地球市民 長崎集会実行委員会	6 月 12 日	原爆資料館 ホール
2	第 37 回長崎平和音楽祭 [共催金：100,000 円]	長崎平和音楽祭実行委員会	8 月 6 日	原爆資料館 ホール
3	第 14 回 ～語り合おう in Nagasaki～ 外国人による日本語弁論大会 [共催金：100,000 円]	外国人による日本語弁論大会 実行委員会	10 月 16 日	追悼平和祈念館 交流ラウンジ

令和 4 年度 協力事業

No.	事業名	主催団体	開催日	開催場所
1	ナガサキ・土崎被爆証言 講話会	秋田市	7 月 23 日 (講話会) 7 月 15～28 日 (展示)	土崎みなと歴史 伝承館
2	“Convergence of Peace Activities” テクノロジーでつながる平和 活動展	東京大学大学院 渡邊英徳研究室	8 月 6・7 日	東京大学ニュー ヨークオフィス

令和 4 年度 後援事業

No.	事業名	主催団体	開催日	開催場所
1	へいわの絵	生活協同組合ララコープ	5 月 23 日 ～8 月 23 日	長崎ブリックホ ール 2 階他
2	継承フォトワークショップ	Studio One Nagasaki	6 月 1 日 ～11 月 30 日	長崎市
3	ピースシネマ&コンサート	長崎県映画センター	6 月 18 日 7 月 18 日 7 月 24 日	諫早文化会館中 ホール アルカス SASEBO イベントホール 長崎市民会館 ホール

4	第 69 回 長崎原爆忌平和祈念俳句大会 [賞楯交付：3960 円]	第 69 回長崎原爆忌平和祈念 俳句大会実行委員会	7 月 23 日	長崎原爆資料館 平和学習室
5	ナガサキ映画と朗読プロジェ クト	ナガサキ映画と朗読プロジェ クト実行委員会	7 月 23 日 ～24 日	原爆資料館 ホール
6	第 4 回長崎平和祈念茶会	一般社団法人茶道裏千家淡交 会長崎支部	8 月 6 日	長崎原爆資料館 いこいの広場
7	平和の祈りキッズゲルニカ in ながさき 国際子ども平和 壁画展	長崎親善人形の会「瓊子の会」	8 月 6 日 ～31 日	長崎原爆落下中 心地公園内 下の川
8	第 60 回原爆忌文芸大会 [助成金：10,000 円]	NPO 法人長崎国際文化協会	8 月 7 日 8 月 1 日～10 日展示	長崎ブリックホ ール 2 階
9	2022 ピースアクション in ナガサキ虹のひろば	長崎県生活協同組合連合会	8 月 8 日	長崎市民会館 文化ホール
10	被爆 77 年 連合平和 2022 ナガサキ集会	日本労働組合総連合会	8 月 8 日	長崎県立総合 体育館
11	国際平和映像祭 2022	一般社団法人国際平和映像祭	9 月 18 日	原爆資料館 ホール
12	第 10 回平和首長会議総会	平和首長会議、広島市	10 月 19 日・ 20 日	広島国際会議場
13	写真展「生きて、繋いで -被爆三世の家族写真-」	被爆三世 これからの私たち は Project	11 月 3 日～ 16 日	追悼平和祈念館 交流ラウンジ
14	平山郁夫展～日本画で旅する 道～	公益財団法人佐世保地域文化 事業財団 佐世保市博物館島瀬美術セン ター	11 月 3 日～ 12 月 25 日	佐世保市博物館 島瀬美術センタ ー
15	川村奈美子ピアノリサイタル ～平和を願って～	一般社団法人アルテ・クラシ カ協会	11 月 5 日	長崎大学 創楽堂
16	長崎国際平和映画祭	国立長崎原爆死没者追悼平和 祈念館	11 月 6 日	出島メッセ長崎 コンベンション ホール
17	第 44 回 長崎 YMCA 平和の使者クリスマスカード コンテスト	長崎 YMCA 長崎ワイズメンズクラブ	11 月 26 日～ 12 月 25 日	長崎 YMCA、浜屋 百貨店他
18	日米人形交流 95 周年記念シ ンポジウム 「平和・未来への伝言～ナガ サキから～」	長崎親善人形の会「瓊子の会」	2 月 11 日	長崎原爆資料館 ホール
19	生きてつないで 2023NAGASAKI	被爆三世・四世プロジェクト これからの私たちは	3 月 29 日～ 4 月 2 日	石丸文行堂 6 階 イベントホール

⑤秋月グラント（助成制度）

被爆の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体等へ、初代理事長である（故）秋月辰一郎氏の名を冠した助成を行い、平和に関する事業・活動を支援する。

令和4年度は、4件の事業を助成した。

No	事業名		事業内容
	主催団体		
	開催期間	助成金	
1	「平和の旅」のDVD制作・普及		過去に上演した「平和の旅へ」の映像に長崎原爆等の映像を加えたDVDを制作することで、被爆の実相を伝え、核兵器廃絶を訴えた。また英語版制作、Youtubeでのネット配信により広く発信した。
	「平和の旅へ」合唱団		
	6月～9月	150,000円	
2	継承フォトワークショップ		若い世代を対象に、被爆者への聞き取りや撮影のワークショップを実施。作品展を行い、若い世代の継承活動への参加のきっかけをつくとともに、交流証言者などさらに発展した活動に繋げた。
	Studio One Nagasaki		
	6月～11月	140,000円	
3	グラウンド・ゼロから ～新たな継承へのハンドブック～		国内外で原爆を研究する研究者、作家、芸術家の継承の方法等をまとめたハンドブックを制作した。若い世代、国内外の人々の関心と議論を交わす土台の構築を目指した。また、出版に合わせてイベントを実施した。
	竹田信平／アンチモニュメント・リサーチ・コレクティブ		
	6月～2月	150,000円	
4	Pray for Peace Collection 2022 in 長崎		長崎からモデルやMCを募集し、長崎や広島、沖縄に届いた千羽鶴で作成したドレスに「長崎を最後の被爆地に」との願いを込め、ファッションとアートで平和のメッセージを発信した。また、平和への願いを込めたランタンを制作し、会場に展示した。
	Pray for Peace Collection 2022 in 長崎実行委員会		
	8月9日	150,000円	

## 2 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は、平成 15 年 7 月の開館以来、国（厚生労働省）から当協会が施設の管理及び事業運営を受託している。

令和 4 年 9 月 14 日には、累計入館者数 200 万人突破のセレモニーを実施した。

令和 4 年度は、台風 14 号通過のために 2 日間（9/18～19）臨時休館した。

令和 4 年度も、引き続き、新型コロナウイルスの感染対策を徹底することで、来館者が安全安心に見学できる施設の環境づくりに努めた。

### （1）追悼平和祈念館入館者数の推移

年 度	入館者数	対前年度増▲減	摘 要
令和元年度	147,467 人	8,362 人増 (6.0%)	2/29～3/31 臨時休館
令和 2 年度	57,917 人	89,550 人減 (▲60.7%)	4/1～5/31 臨時休館（コロナ）
令和 3 年度	60,600 人	2,683 人増 (4.6%)	4/28～6/7 8/10～9/12 1/21～3/6 臨時休館（コロナ）
令和 4 年度	95,260 人	34,660 人増 (57.2%)	9/18～9/19 臨時休館（台風）

### （2）追悼平和祈念館の主な事業（令和 4 年度）

#### ① 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開及び死没者名簿の保管

・令和 4 年度：334 人（令和 3 年度：305 人）

令和 4 年度は、九州の大分県、宮崎県、鹿児島県に直接に協力をお願いするなど、原爆死没者の氏名・遺影の登録について周知を行い、登録数の増加に努めた。さらに、都道府県の担当者あてに文書を送付して協力を要請した。

#### ② 被爆体験記等の収集・整理・公開

・令和 4 年度：69 人分（令和 3 年度：36 人）

令和 4 年度は、長崎県と長崎市の協力を得て、長崎県内の被爆者へ直接協力と呼びかけたことにより、多くの被爆体験記を収集した。

#### ③ 企画展の開催（収集した被爆体験記等の展示・公開）

・第 12 回体験記企画展「ご遺影は語る」

令和 4 年度は、「原子爆弾死没者氏名・遺影（写真）登録」（通称：ご遺影登録）された方が登録の際の記載事項（被爆状況）を被爆体験記として紹介した。

令和 3 年度に制作したシアター「女性たちの原爆」（館内交流ラウンジで上映する映像作品：約 20 分）の英語字幕版を制作し、来館した多くの外国人が鑑賞した。

④ 被爆体験記の執筆補助

・令和4年度：64人（令和3年度：21人）

令和4年度は、長崎県と長崎市の協力を得て、長崎県内の被爆者へ直接協力と呼びかけたことにより、多くの体験記が集まった。

⑤ 被爆証言ビデオの制作

・令和4年度：24人（うち海外2人）（令和3年度：10人）

⑥ 被ばく医療関連情報の収集・整理・提供

・令和4年度の被爆者健康講話：7回（令和3年度：6回分録画配信）

令和4年度は、8月より対面とオンラインによるハイブリッド形式での講話を再開し、録画したものを祈念館ホームページに掲載した。

⑦ 平和関連情報の収集・整理・提供

・令和4年度：2,162件（令和3年度：814件）

・令和4年度は、タブレット端末のみ感染対策を講じた上で開放した。

⑧ 海外原爆展の開催

・令和4年度は、米国ハワイ大学マノア校で海外原爆展を開催した。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、職員および被爆者の渡航は中止し、パネル写真等の展示のみの実施とした。

なお、被爆体験講話については、3月23日にオンラインで行った。

・開催場所 ハワイ大学マノア校（米国・ホノルル市）のハミルトン図書館

・開催期間 令和5年3月1日～3月31日

・来場者数 2,254人

※令和5年4月30日まで会期延長して開催した。

特に「平和・国際交流ネットワーク構築で来崎（2月18日～2月19日）したハワイ大学の学生がパネル写真等の説明を行った」と情報提供があった。

⑨ 多言語化対応事業

・英語・中国語・韓国語等への翻訳、インターネットでの公開

⑩ 外国語講座の開催（平和ボランティア育成外国語講座：英語・中国語・韓国語）

・令和4年度：英語、韓国語、中国語の22人修了（令和3年度：27人終了）

⑪ 被爆体験記の朗読事業

・令和4年度は、新たに市内小学校2校、中学校2校に朗読指導を行うとともに、若者の参画のためにU-25の募集を開始した。

・令和4年度：常駐朗読89回、定期朗読会14回、派遣朗読36回

（令和3年度：常駐朗読48回、定期朗読会10回、派遣朗読31回）

⑫ 家族・交流証言者等の派遣および語学等の研修

・令和4年度の長崎市外への派遣145件（令和3年度：94件）

・令和4年度の語学等の研修は、家族・交流証言者語学育成研修（少人数による対面式）、被爆体験記朗読ボランティア語学育成研修の実施（オンライン研修）を実施した。

- ⑬ インターネット会議システムによる平和学習・交流（ピースネット）
- ・令和4年度：40回実施（うち海外3回）（令和3年度：55回）
  - 令和4年度は、新型コロナウイルス感染防止のために、修学旅行で長崎に来ることができなかった近隣の学校も対象に実施した。
- ⑭ 修学講習の実施（追悼平和祈念館内における被爆体験講話）
- ・令和4年度：157回（令和3年度：81回）
  - 修学旅行生などの団体に会場として、祈念館の「研究室」を提供し、平和学習のために被爆体験講話を実施されている。
- ⑮ インターネットによる情報提供（グローバルネット等：広島館と協同）
- ⑯ 情報展示システムの保守・管理
- ・令和4年度は、令和5年7月に実施予定のシステム機器の更改に伴う、追悼空間前室の更新を検討した。
- ⑰ 平和・国際交流ネットワーク構築（若者による平和ネットワーク構築プログラム）
- ・令和4年度の参加者：計30人（令和3年度：オンライン開催）  
（内訳：外国人学生17人、日本人学生13人）
  - ・期間：2月18日～2月19日
  - ・令和4年度は、対象国を拡大し、「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」から、「若者による平和ネットワーク構築プログラム」に改称し、「Knowing the other side 他者を知る」をテーマに、3年ぶりに対面で実施した。
- ⑱ 国際平和映画祭の開催
- ・令和4年度：3作品の上映のほか、平和祈念特別企画としてウクライナ出身の歌手を招き、コンサートを行った。（令和3年度：3作品）
  - ・実施日：令和4年11月6日
  - ・来場者数：368人（令和3年度：144人）
  - ※上映作品（令和4年度）「ゴジラ」「神父とシスターと爆弾」「エセルとアーネスト ふたりの物語」
- ⑲ 「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業
- ・令和4年度は、令和3年度に収集した「被爆前の長崎」をテーマとした写真を活用した平和教育映像教材を5本制作し、被爆前後の様子を比較しながら見ることができる航空写真マップ「航空写真アーカイブ」が完成した。
  - 令和4年度は、完成した成果品を広く利用してもらうため、ホームページ「被爆前の日常アーカイブ」を開設した。
- ⑳ その他（館内利用）
- ・令和4年度：384件 23,161人（令和3年度：309件 16,644人）
  - 修学旅行の学校が、追悼空間を利用して平和集会や献花式を行った。
- ㉑ 祈念館施設・設備の維持管理
- ・令和4年度も、引き続き、新型コロナウイルスの感染対策を徹底することで、来館者が安全安心に見学できる施設の環境づくりに努めた。

### 3 収益事業（図書等販売）

当協会では、平和推進事業の実施に必要な自主財源を確保するために、原爆に関する書籍や平和グッズを作製し、原爆資料館の売店、協会 SHOP サイト、市内の書店で販売している。

令和 4 年度には、新たに「Peace な ねこ」シリーズで、T シャツ、エコバッグ、クリアホルダーを作製し販売した。また、協会 SHOP サイトを全面的にリニューアルし、クレジットカードや電子マネー決済を導入した。

### 4 法人の管理運営に係る費用（法人会計）

令和 4 年度も、社会保険労務士、税理士等の専門家から助言を受けて、法人運営を的確に運営するとともに、法人の理事会、評議員会、各種委員会等を開催した。

令和 4 年度は、特にハラスメント研修、電子帳簿保存法セミナー受講、経理事務処理の研修などを実施することで、協会職員のスキル（事務処理能力）の向上などに努めた。

### 5 その他

令和 5 年度から会員の皆様の利便性向上を図るため、協会の会費納入方法について、これまでの郵便振替及び銀行振込に加え、新たにコンビニ収納の開始に向け、準備に取り組んだ。

また、学生会員増加策として、学生会費無料化の準備を進めた。

---

#### （附属明細書）

令和 4 年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので作成しない。